

2018年2月25日(日)／説教者：国分美生

説教：「民と共に讃美する人」

聖書：出エジプト記15:19～21

出エジプト記15章1～18節と19～21節は明らかに別の括りになっており、それぞれにイスラエルの神への讃美が記されています。この二つの文節を比較してみると、いくつかの相違が明らかになってきます。

1節から18節までは、力を発揮して戦いを勝利に導く神を讃美する歌。神がいかにイスラエルをご自分の民として特別に扱い、一方で諸国に対してはおののくべき圧倒的な存在であるかをボリュームたっぷりに描き出します。「イスラエルの民は主を讃美した」とありますが、読む人にモーセが主役であるような印象を与えます。19節から21節は讃美するイスラエルの人々の姿と預言者ミリアムに焦点が当てられています。ミリアムは女たちと共に神を讃美しながら進み、イスラエルの人々は男も女もその後について行ったとあります。

1節から始まる壮大で勇ましい海の歌に、ひっそり付け足したかのように見えるこの19節以下の部分。実はこのミリアムの歌の方が前出の歌よりずっと早く成立していました。古い伝承の中ではミリアムはモーセの姉というより、預言者・民の指導者という重要な人物として語り継がれてきました。しかし歴史の中でミリアムの存在感は非常に薄められてきました。かたやモーセはエジプト脱出の立役者、英雄として、後代の教会の歴史の中でどんどん神に近づけられたイメージを持つようになっていきました。

そのようになった理由はまず第一に、聖書が男性中心の時代に男性たちの手によって書かれたこと、そしてキリスト教会が長年、男性の指導者にしか権威を与えてこなかったという事実が挙げられます。

キリスト教における非常に大きなこの問題・課題は実は性別の問題だけではありません。父権制社会にリーダーシップを握っていたのは、権力や財力を持ち、心も体も健康で逞しく、人に言うことをきかせることがうまい人。その対極にいる老若男女は昔も今もたくさんいます。先頭に立ってぐいぐい人々を引っ張る華やかなリーダー像は私たちのうちに憧れを喚起しやすいかもしれません。しかし聖書によく耳を傾けると、それとは違ったリーダー像を神ご自身は考えています。出エジプトの出来事は、取るに足らないと見なされていた、その女性たちの勇気ある行動に支えられています。そして預言者ミリアムからは、上からではなく、人々と歩みを共にし、共に歌い踊る「指導者」の姿を見ることができます。(国分美生)